



「道徳の時間の指導の充実」

平成24年度 第1回道徳教育研修会
平成24年8月16日(木)実施

講師 畿央大学教育学部現代教育学科 島 恒生 教授



道徳の特質を押さえ、工夫を図ることで、楽しい道徳授業は実現できます。

道徳の特性

道徳の時間は、子どもたちが様々な見方や考え方、感じ方と出会い、自分と他の人との違いに気付くことが大切である。したがって、行動の仕方そのものではなく、その根底にある見方や考え方、感じ方など、心の内面に焦点を当てて考え合うことが大切である。

様々な見方や感じ方と出会い、自分との違いに気付ける授業づくりの7つのポイント

1 中心発問・そこに至るまでの基本発問を大切に

- ・ 道徳授業では、発問の仕方では展開が大きく変わる。
- ・ 「主人公は、どんな気持ちでしたか?」「主人公は、何をしました?」「主人公は、何を考えた?」では、子どもからの答えが違ってくる。
- ・ 書いてあることを尋ねるのは、発問ではなく、「確認」である。

2 よりよい発問をつくるには、発問に対する子どもの意識を予想すること

- ・ 指導案に「主な発問と予想される子どもの意識」の欄があるのは、子どもの意識を予想するためである。
- ・ よい発問とは、子どもがどう返してくるか考えた時、それが「ねらい」と合っている発問である。
- ・ 様々な見方や考え方、感じ方に出会えるよう、広がる発問、深まる発問を心掛けること。

3 少数意見を大切に、小グループでの話し合いが効果的

4 受容的な雰囲気大切に

- ・ 道徳の授業には、正解・不正解はない。
- ・ 「そうですね」よりも「なるほどね」がなじむ。
- ・ 教師はできるだけ発言回数を減らし、子どもたちの発言を待つこと。深く考えるためには沈黙も重要である。

5 子どもの言葉を使ってまとめる

- ・ 教師の言葉でまとめると、それは「説教」「説法」となる。

6 構造的な板書を大切に

- ・ 板書には、自分の見方や考え方、感じ方との違いに気付かせる役割がある。
- ・ 似た意見を近くに書いたり、まとめたりして、グループ化(類型化)する。すると、子どもたちは自分の考えとの違いに目を向けることができる。

7 みんなで取り組むことを大切に

- ・ 道徳教育推進教師を中心に、教材や図書の準備、掲示物の充実、教材等を蓄積していく資料コーナー等の整備、道徳の時間の授業の公開や情報発信、道徳の時間に関する授業研修の実施、授業の相談や情報提供などにも、学校全体で取り組む。

視線が友だちに向く授業(練りあいがある授業)に

- 読み物資料の内容を読み取れているから、子どもたちの顔が上がっている。
- 子どもたちの関心は、友だちがどのような考えをしているかにある。
- 教師は、一人一人の意見に共感しつつ、言わば交通整理をすることが、主な役割となる。

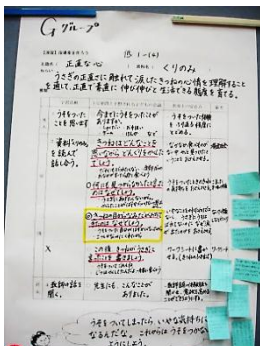
担任が道徳授業を大切にすれば、子ども達は道徳授業が必ず好きになる！
「楽しい道徳授業」の実現は、まず教師が楽しくなければ、実現できるものではない

午後の演習では、小・中学校別のグループに分かれて資料分析を行い、中心場面や中心発問等について考え、学習指導案を作成しました。

その後、ポスターセッションを行い、気付いたことを付箋に貼って交流をしました。

<受講者から>

- ・ 教師の言葉の選び方で、子どもの答えが変わることや、資料から探す発問と自分の心に問う発問の違いが分かった。
- ・ 発問作りの奥深さを考えさせられた。今までこのような形で発問を考えてみたことがなかったので、難しかったけれど納得できる話と演習だった。
- ・ 指導案の展開を考えていく手順を示してくださり、他校の先生と知恵を出し合って指導案を作成していく過程が大変参考になった。



「コミュニケーション能力の育成をめざして

～小学校外国語活動と中学校外国語教育をつなぐ～

外国語活動・外国語研修会

平成24年8月13日（月）実施

講師：文部科学省 初等中等教育局教育課程課・国際教育課

国立教育政策研究所 教育課程研究センター

直山木綿子 教科調査官

本研修会の趣旨 小・中をつなぎ、外国語教育を充実させ、コミュニケーション能力の育成を目指す

【研修Ⅰ】 講話 ～外国語活動・外国語の現状と課題、改善の方向性について 等～
《現状と課題》 《改善の方向性》

【小学校】

- ・教員の指導力向上のための研修が十分でない。
- ・外部人材の確保＝成果と思われがちである。
→「担任主体の授業」という意識が希薄
- ・5、6年の担任にお任せで、学校全体に広まらない。
- ・英語の発音に対する自信がない。
→授業に対する消極的な姿勢に



【中学校】

- ・中学校外国語は小学校外国語活動の導入により、「二番煎じ」？
- ・高校入試の対策に時間を取られがち。

【小学校】

- ・学校長のリーダーシップのもと、校内の組織体制を確立し、校内研修の充実・活性化を図る。
- ・学級経営を基盤とし、コミュニケーション活動が中心となる外国語活動、学級担任にしかできない授業づくりを。

【中学校】

- ・小学校外国語活動と関連させ、中学校外国語授業の充実を図る。
→英語で進める授業を基本、丁寧な音声から文字指導への移行、解説型から活動中心型の授業へ

【研修Ⅱ】 演習 “Hi, friends! 2”の最終単元Lesson8“What do you want to be?”「夢宣言をしよう」の指導計画を元に、中学校区基本のグループで、「小学校外国語活動と中学校外国語教育をつなぐ」具体的な取り組みを考える。

《1 グループワーク》

夢をつなぐ！

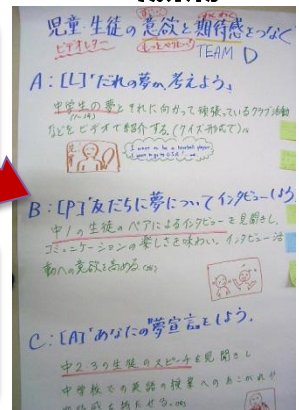
- ・生徒が小学生の時に作った将来の夢に関する作品を提示する。（教材の共有、成長の自覚）
- ・校区の小学生に向けて英語で夢を語る中学生の姿をビデオ撮影し、小学生が視聴する。
- ・小・中でなりたい職業ランキングを作成。夢を比べてみる。



各グループの成果物

児童・生徒の意欲と期待感をつなぐ！

- ・中学生の、夢やそれに向かって部活動等に頑張る姿をビデオに撮り、小学生が視聴する。（クイズ形式で）
- ・中学生が将来の夢についてインタビューをし合う場面を見て、小学生もインタビューを行う。
- ・小学生も、中学生を見習って夢宣言をする。



他にもこんなアイデアがありました！

- ・中学生が英語で夢を語る姿をビデオに撮り、小学生が視聴。
- ・小学生と中学生がグループになり、英語で夢宣言をし合う。（中学生は英語。小学生は理由の部分は日本語で。）

《2 シェアリング》

- (1) 30秒アピール
- (2) ポスターセッション

《3 直山教科調査官によるまとめ》

○ 外国語教育を充実し、子どもたちのコミュニケーション能力を育成するために、小学校外国語活動と中学校外国語科の共通点と相違点を理解すること。（**共通点**：必然性のある活動を設定すること。小学校では聞く・話す必然性、中学校では書く必然性を持たせる。**相違点**：小学校では曖昧に聞く・話す、それに対し、中学校では正確に聞く・話す。など）

○ 外国語活動の3つのポイント

（↓子どもの実態を考慮、他教科との関連を図る）

・外国語活動の目標を意識・語彙や表現との出会いを工夫・オリジナルの“Hi, friends!”をつくる

○そして中学校では、小学校で行ったような活動や活用した教材等をとおして円滑な移行を図り、子どもに達成感を！



【受講者の感想】

- “Hi, friends!”に「自分のことを大切にできる人になってほしい」という思いが込められていることが分かりました。「外国語活動でしかできないこと」を子どもの実態を考慮しながら探っていこうと思います。
- 小中連携を意識した様々な考え方や、具体的な活動をシェアリングできたので、視野が広がりました。人の交流のみイメージしていましたが、色々なやり方があると思いました。